

天声人語

先月末、白菜が盗まれるというニュースがあった。5000個で被害額は15万円相当という。複数の人間が何回かに分け、トラックなどで畑から持ち去ったのでは。そんな見方が出ているというから、組織的な犯行かもしれない

▼昨年は養魚池のサケの腹が切られ卵が盗まれる事件もあった。どちらも品薄で値が上がるさなかの出来事である。価格上昇が盗難を誘ったのはインターネット上の仮想通貨も同じだろう。泥棒対策が手薄だったことまで共通している▼580億円分の仮想通貨NEMを失った交換業者は、不正アクセスを防ぐ手立てが不十分だった。破られやすい金庫を往來に置いていたようなものか。仮想通貨がハッカー攻撃を受ける例は外国でも少なくない▼まともな金融の世界では愛想をつかされているかと思うと、どうも違うらしい。仮想通貨には危うさがつきまとうが、裏で支える仕組みには将来性がある。そんな見方が強まっていると日本銀行出身の中島真志・麗沢大教授は言う。

「盗難はあったが偽造は起きていない。紙幣を刷るより安全な技術だと言えるかもしれない」▼ブロックチェーンと呼ばれるこの仕組みは、例えば入り組んだ線路のようなものか。今は列車として仮想通貨が走るが、円やドル、株式を走らせることもできるはずだ。各国の証券取引所や中央銀行が目の色を変えて研究している▼電話がインターネットに代わり行き交う情報は格段に増えた。そんな変化に、いつかつながるだろうか。